

成果報告書 概要

2014年度助成 (助成期間：2015年1月1日～2016年12月31日)

| | | | |
|------|-----------------------|---------------|--------------------------|
| タイトル | 持続可能な社会づくりに貢献できる人材の育成 | | |
| 所属機関 | 福島県須賀川市立白方小学校 | 役職 代表者 連絡先 | 校長 内山 博行 0248-65-3191 |

| 対象 | 学年と単元： | 課題 |
|-------|--|---|
| ○ 小学生 | 第1学年生活科「きれいにさいてね」 第2学年生活科 | ○ 教師の指導力向上を目指す教員研修、実験方法指導、教材開発 子ども達の科学的思考能力の向上を目指す授業づくり、教材開発 |
| 中学生 | 「見つけよう 知らせよう いろいろなひみつ」 第3学年総合的な学習の時間 | |
| 教員 | 「白方のよさを見つけよう」 第4学年社会科「わたしたちの県」 第5学年理科 | ものづくり(ロボット製作等)による、科学分野で活躍する人材の育成 |
| その他 | 「植物の発芽と成長」「流れる水のはたらき」 第6学年総合的な学習の時間「白方から世界へ」他 | その他 |

| | |
|--|---|
|  <p>平成27年度ESD研究発表会</p> |  <p>平成28年度環境教育全国大会での授業の様子 第2学年・4学年・6学年</p> |
|--|---|

| | |
|----------------|---|
| 実践の目的： | 地域の「ひと・もの・こと」を活かし学校の実態に合わせた「ESDカレンダー」を作成し、「関心の喚起→理解の深化→参加する態度や問題解決能力の育成」という一連の過程を充実させるとともに、その「具体的な行動」を促す教育活動を展開することにより、児童に体系的な思考力を育み、持続可能な社会づくりに貢献できる児童を育成する。 |
| 実践の内容： | 1 ESDの理論研究と「ESDカレンダー」の作成・改善・充実 2 講師を招聘しての授業研究会の実施、実践を検証 3 日常的なESDの授業実践により、体系的な思考力や表現力を身に付けた子どもの育成を図る。 |
| 実践の成果： | 1 ESDの先進校の実践研究をもとに、本校独自のESDカレンダーを作成し、指導の充実を図ることができた。 2 ESD研究発表会、環境教育全国大会を本校会場として行い、広く研究の成果を発表し、実践の検証を行うことができた。 3 発達段階に応じた思考力や表現力を身に付けた子どもの姿を共有し、指導することができた。 |
| 成果として特に強調できる点： | 1 生活科、総合的な学習の時間を中心として、地域の「ひと・もの・こと」を活かした「ESDカレンダー」の作成を行い、児童の実態に即した指導をすることができた。 2 白方小学校のESDの視点に立った学習指導で育む能力・態度を明確にし、子ども達にその姿を見ることができるようになってきた。 |

成果報告書

| | | |
|-----------|-----------------------|---------------|
| 2014 年度助成 | 所属機関 | 福島県須賀川市立白方小学校 |
| タイトル | 持続可能な社会づくりに貢献できる人材の育成 | |

1. 実践の目的（テーマ設定の背景を含む）
2. 実践にあたっての準備（機器・材料の購入、協力機関等との打合せを含む）
3. 実践の内容
4. 実践の成果と成果の測定方法
5. 今後の展開（成果活用の視点、残された課題への対応、実践への発展性など）
6. 成果の公表や発信に関する取組み
7. 所感

1. 実践の目的（テーマ設定の背景を含む）

本校は、「地域に根ざし未来をめざした教育を進める学校」として、「心身ともに健康で、総合的な学力を身に付けた白方の子どもの育成」を教育目標として掲げ、教育活動を推進してきた。

本校の現状として、児童は素直だが、自ら考え判断し行動できる児童は少ない。時と場に応じたコミュニケーション能力や人間関係対応能力が乏しい児童が見られるという実態がある。その上、東日本大震災及び東京電力福島第一原子力発電所の事故後、校地内の除染、地域の除染等行われているものの、里山や森林の除染に関しては見通しが立っておらず、校地以外での自然活動は制限せざる得ない状況である。

このような状況だからこそ、現状をしっかりと見つめ、持続可能な社会をめざして未来を切り拓くたくましい子どもたちを育てたいと考え、2013年9月に、福島県の小中学校の中では初めてのユネスコスクールの認可を受けた。

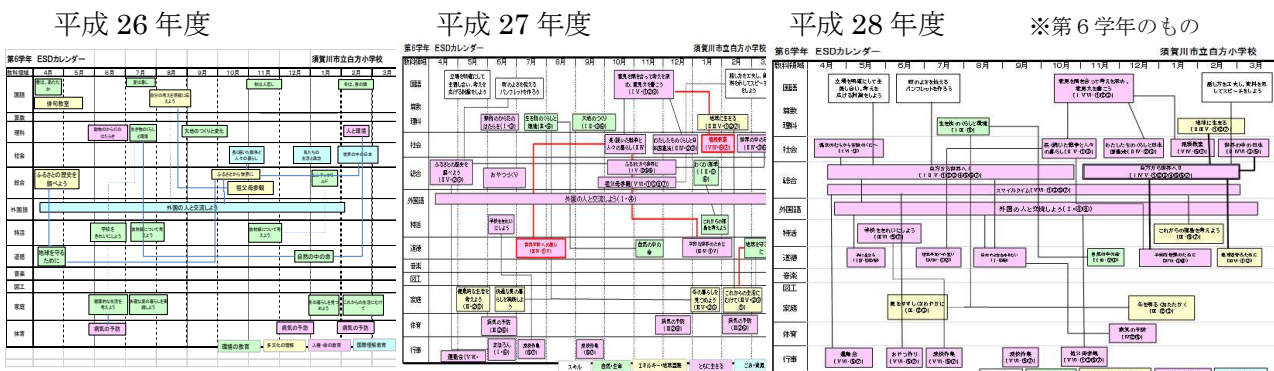
本校はユネスコスクールとして、地域の「ひと・もの・こと」を活かし学校の実態に合わせた「ESDカレンダー」を作成し、「関心の喚起→理解の深化→参加する態度や問題解決能力の育成」という一連の過程を充実させるとともに、その「具体的な行動」を促す教育活動を展開すれば、児童に体系的な思考力を育み、持続可能な社会づくりに貢献できる児童を育成することができるものと考えた。

2. 実践にあたっての準備（機器・材料の購入、協力機関等との打合せを含む）

- 1 ESDについての理解を深め、「ESDカレンダー」を作成するために、「八名川小学校ESDパワーアップ研修会」「岡崎市男川小学校研究発表会」「環境教育全国大会（多摩第一小学校）」等の先進校視察を行った。
- 2 子どもたちが、身近なものから課題を見出していくことや自分たちの追求したことを伝える手立て等として活用するタブレットや、自然豊かな地域の「もの」を活かすために、子ども達の気づきを促す植物や昆虫の図鑑、思考を整理し話し合うためのマグネット方眼シートなどを購入した。
- 3 平成27年度ESD研究発表会に向け、県中教育事務所 主任指導主事 酒井勝弘様からご指導をいただいた。
- 4 地域の「ひと もの」の活用のため、トンボの先生として講師に来ていただいている方のつくったオニヤンマの里への見学バス代として活用した。

3. 実践の内容

1 先進校の視察とESDカレンダーの作成・改善・充実



先進校で作られていたカレンダーを参考にして、本校の教育課程及び環境教育の視点から初めの(平成 26 年度)ESDカレンダーを作成。平成 27 年度は、環境省「ESD環境教育モデルプログラムガイドブック」掲載の「ひとめでわかる学年別・教科別ガイド」を参考にして観点を設け、改善を行った。更に、平成 28 年度は、総合的な学習の時間を中心とし、関連する各教科単元のつながりを考慮しながら充実を図ることができた。

2 授業実践

平成27年度 ESD研究発表会に向けて、問題解決学習の充実を図りながら、観察・実験後の言語活動の充実を図ってきた。さらに、自分の考えをノートに書くこと、見通しをもって観察・実験を行うこと、友達のことを取り入れ考察していくことをめあてて学習を展開した。

結果と分かったことをタブレットを使って説明する。



説明について、質問したり意見を言ったりする。

発表のメモをもとにして考察する。



平成 28 年度 授業研究会において、小単元導入の授業を行い、問題解決学習の過程の「事象提示からの問題の把握」、「予想・仮説の設定」の段階を行った。関心を高めるために、成長の様子が異なるインゲンマメを提示、「どうして?」を持たせ、原因を考えさせる。さらに、自分たちの育ててきたインゲンマメを目の前にし、「自分のインゲンマメも大きく育てたい。どうすれば?」とよりよく成長させるための方法を考え、確かめるための計画を立てた。



自分たちで気づいたこと、考えたことを話しながらかいていく。



どうすれば自分たちのインゲンマメがより元気に育つのか、真剣に話し合っている。

3 生活科からのつながりの中で（日常的な実践）

植物・昆虫図鑑を下学年用のものからそろえ、「いつでも、どこでも」子どもたち全員が自由に使用できるような環境づくりを行った。図鑑を設置すると、すぐに子ども達が手に取って見ている姿があり、「なんだろう？」と思った時に調べようとする態度の育成につながった。



4. 実践の成果と成果の測定方法

1 授業研究会における検証

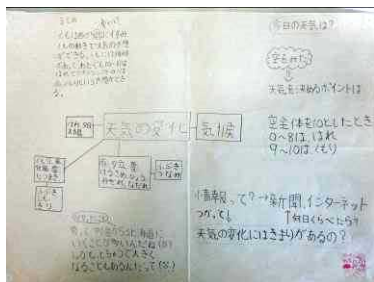
第5学年（6月14日）は自主公開で、第1・3学年（6月29日）は岩瀬地域授業研究会で、第2・4・6学年（11月18日）は環境教育全国大会で授業を公開した。

特に6月の第1学年の授業では、子ども達が、自分で育てているあさがおの成長を実感し、これからのように成長するのか予想し、必要な世話を考えていくことができた。また11月の第4学年の授業では、学習してきた事実をもとに自分の高速道路建設計画について説明し、グループで検討していくことができた。どの学年でも、子ども達の主体的に取り組む姿、自分の考えを伝えようとする姿、教師の気づきを引き出すはたらきかけ等、様々な点において称賛の言葉をいただいた。



実態として、なかなか気づけない、一人では自信がない、話せない子ども達が、それぞれの学年で、「自分のもの」「地域のひと・こと・もの」を活かした学習を展開し、気づき、考え、調べ、まとめ、発信していくという活動を行うことができた。

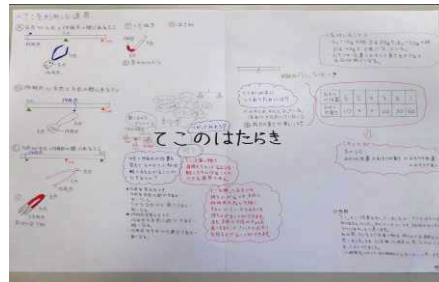
2 問題解決の過程を大切に理科の授業における検証



< 5年生の4月 >



< 5年生の9月 >



< 6年生の11月 >

問題解決学習の振り返りをしながら学習を進めていくことにより、より日常生活の中に学習したことを活かしていくことができる視点を伸ばして行くことができた。5年生の初めの振り返りシートは、学習したことのみを記述しかなかった子が、自分でさらに詳しく調べたり、日常生活の中で見つけたりすることができるようになってきた。6年生でもより詳しく自分の学習の振り返りをすることができるようになり、自分の考えをもって学習している姿がうかがえるものが多くなった。

3 「白方フェスタ」の発表における検証



「白方フェスタ」の発表に向けて、それぞれの学年で発達段階に応じたテーマ「学校生活、町たんけん、学校行事、今までの10年にありがとう、日本の産業、白方から世界へ」を決定し、計画的に調べ、まとめていく協働的な学習が展開され、来てくれた保護者、祖父母、地域の方々に分かりやすく伝えようと工夫した発表がなされた。

4 県学力調査における検証

平成28年11月10日に行った福島県学力調査「理科」の問題では、全員が記述問題の解答欄に自分の考えを書き、空欄にしている児童は見られなかった。

5. 今後の展開（成果活用の視点、残された課題への対応、実践への発展性など）

1 ESDカレンダーの改善を図る

ESDカレンダーは、生活科・総合的な学習の時間を中心として作成している。特に、総合的な学習の時間の特徴として、大きなテーマはあるものの学習する内容については、子ども達の実態に応じて変わっていくものである。そのため、毎年子ども達の実態に応じてカレンダーの改善をしていく必要がある。

2 地域の「ひと・もの・こと」の蓄積と掘り起こしを進める

外の地域から勤務することの多い教師も、地域のことを知る必要がある。そのためその手助けとなる情報を蓄積していくことはとても大切なことであり、地域に生きていく子ども達にとって自分たちの地域を理解していくために必要である。今年度初めて知った「ひと・もの・こと」があったので、続けていきたい。

3 持続可能な社会づくりのために必要な能力や態度の育成

持続可能な社会づくりのために必要な能力や態度は、日々の授業や生活の中でこそ養われていくものである。理科の学習において、「子どもの生活体験や既習事項を引き出し、その実態を踏まえ、学習計画を弾力的に進めていくこと」「観察・実験したことをもとに考察していくこと」「学習したことを身近な生活の中へつなげていくこと」は、持続可能な社会づくりのために必要な「多様な観点と見通し」「交流と協力」「つながりの尊重」「未来への取り組み」という能力や態度に直結するものである。その能力や態度を身に付けた子どもの姿をイメージし指導していくために、教師の指導力、指導技術の向上を図っていく必要がある。

6. 成果の公表や発信に関する取組み

※ メディアなどに掲載、放送された場合は、ご記載ください

平成27年9月19日 地域新聞社で「オニヤンマの里」への校外学習について掲載

平成27年10月16日 ESD研究発表会 事後、地域新聞社で研究会について掲載

平成28年6月10日 中学校区の学校に案内を出し、授業研究会

平成28年6月28日 岩瀬地域授業研究会

平成28年11月18日 環境教育全国大会 事後、地域新聞社で大会について掲載

※学校ホームページには、上記のすべてを掲載し、発信しています。

7. 所感

「持続可能な社会づくりに貢献できる人材の育成」のための研究・実践を進めていくにあたって、日産財団から助成をいただいたおかげで、先進校へ視察に行き「ESDカレンダーの作成」及び「考え方」、さらに「実践への手がかり」を得ることができました。

また、科学的なものの見方や考え方を養っていくために大切にしている問題解決の過程の中でも、「観察・実験」「考察」段階の大きな支援となるICT機器・マグネットシートの購入をすることができ、「考察」の時、今まで以上に、主体的に取り組み、友だちと話し合い考えを高め合う姿が見られるようになったことは大きな成果です。

今後ともこの2年間の研究を継続しながら、より一層充実させ、子ども達の思考力や表現力を向上させていきたいと思えます。